

日本生殖看護学会

ニュースレター

No.
65

Japanese Society of Fertility Nursing (JSFN)

目 次

・ドナーリンク・ジャパンの設立の目的と課題	1
・第21回日本生殖看護学会学術集会のご案内	3
・2022年度不妊症看護認定看護師ポストコース研修会報告	4
・ポストコース研修会に参加して	4
・研究結果をどう臨床に応用するか	5
・会員よりNews！生殖看護認定看護師教育課程の再開講を目指して	5
・これから行われる学術集会・研修会情報（2023年7月～10月）	6
・第13回生殖看護関西地区実践セミナー 報告	6
・理事会報告	7
・不妊症看護認定看護師 リレー寄稿No.22	7
・論文を投稿しよう！	8
・事務局からのお知らせ	8
・会員数MAP	8
・原稿を募集しています！	8
・編集後記	8

ドナーリンク・ジャパンの設立の目的と課題

一般社団法人ドナーリンク・ジャパン 代表理事 仙波由加里

ドナーリンク・ジャパン設立の背景

日本では1948年に、はじめて提供精子を使った人工授精（以下AIDと記す）が実施され、この技術での出生者が国内にすでに1万5,000人以上いると言われている^{1,2}。AIDは開始された当初から、提供者は匿名であることを基本に実施されてきたため、この医療での出生者は提供者の情報を一切得ることができず、近親婚のリスクを抱え、遺伝や家系に由来する疾病のリスクも知りえず、何よりも自分が何者であるのかわからず、自己喪失に陥る可能性がある。一方提供者も自身の提供によって何人子どもが生まれているのかわかることはできず、自身の子どもが自分の提供で生まれた人と出会い、親密な関係となる可能性も否定できない。また提供後に遺伝的体質や家系の遺伝病が分っても、それを出生者に伝えることもできない。

諸外国では出生者の提供者情報を得る権利、すなわち「出自を知る権利」の重要性に対する理解や認識が高まっており、近年、法制度でこれを保障するところも増えてきている。日本でも出生者への提供者情報の開示については、2000年代初頭から検討されてきているが、約20年経過した現在も、配偶子提供者は匿名とされ、出生者に「出自を知る権利」は付与されていない。AID出生者の中には、提供者の高齢化から、自身の提供者が病気や死亡することで、情報を得る機会が一切絶たれてしまうことを懸念する者もいる。

このような背景の中、一般社団法人ドナーリンク・ジャパンは、配偶子提供での出生者と提供者、もしくは提供者を同じくする異父母きょうだいを結びつける（リンクする）ことを目的に設立するに至った。

ドナーリンク・ジャパンの取組み

ドナーリンク・ジャパンが取組むリンクには2種類ある。第一のリンクは配偶子提供での出生者と提供者、もしくは提供者を同じくする出生者同士（生物学的な親・きょうだい）を繋ぐリンクである。そして第

二のリンクは、生物学的リンクではなく、出生者や提供の経験者のネットワークづくりを支援し、同じ経験を持つ者同士の交流を通して、孤立して一人悩む当事者を減らすためのリンクである。

第一のリンクでは、出生者や提供者が任意で自分自身の周辺情報を登録し、それに加えて、登録者の唾液サンプルを用いてDNAマーカーリンク検査を実施する。周辺情報とは、提供者であれば、いつどこで、何回提供したか、体質や身体的な特徴および血液型等であり、出生者については、親がいつ、どこで提供を受けて妊娠したのか、そして出生者自身の生年月日、性別、血液型、体質や身体的特徴などである。ドナーリンクに参加できるのは、当面の間、日本の医療機関で親が提供を受けて出生した18歳以上の者と、日本の医療機関で自身の配偶子を提供した者に限定することとした。このような条件を設けた理由は、日本にはまだ配偶子提供の出生者と提供者の法的関係性を定める法律がなく、出生者から提供者に対して養育費や相続権を求めたり、高齢の提供者から出生者に扶養を要求するようなリスクを避けるためである。日本の医療機関でAIDを受けた場合、基本的にレシピエントは法律婚の夫婦であり、出生者の法的親は確定している。そのため、ドナーリンクで出生者と提供者とのマッチングが成立しても、法的親子関係を形成することが原則不可能である。AIDで妊娠したあと、夫婦が離婚するなどの例外がないわけではないが、その場合には、弁護士らにより個別に対応を検討する。

ドナーリンクの実施に際しては、事務局がまず面談して登録の条件を満たしているかを確認し、次に社会福祉士、心理カウンセラーが心理面の不安等にも配慮して、登録者とコミュニケーションを取りながらプロセスをすすめる。また検査会社によるDNAマーカーリンク検査では、特に異父母きょうだいの判定は難しいため、これに周辺情報とあわせて、医師2名がマッチングの判定を担当する。マッチングの可能性がある場合には、社会福祉士、心理カウンセラーがその当該者と相談しながら、当該者双方の情報開示の範囲を確認し、二者間のコミュニケーションを支援する。登録者の情報はプライバシーに配慮し、すべてID番号のみでプロセスが進められ、ドナーリンク・ジャパンの中でもIDと氏名等の紐づけにアクセスできる者は限定されている。そしてすべての情報はデータベース化され、オフラインで管理している。

第二のリンクには、日本国内の医療機関の提供での出生者や提供者に加え、親が海外の配偶子バンクを利用して出生した人や海外のバンクや医療機関に提供した人、および医療機関を通さず個人的に提供をした経験がある人等も登録できる。出生者同士のグループ、提供経験者同士のグループをつくり、現在孤立している当事者が同じ経験を持つ仲間とリンクすることでエンパワーされるように支援する。そしてこうした当事者支援の活動を通して、出生者や提供者からの声を拾い上げ、彼らの思いや願いを社会に発信し、匿名性の問題や「出自を知る権利」の重要性を社会にも広く理解してもらうことも活動の目的としている。

ドナーリンク・ジャパンの課題

ドナーリンク・ジャパンは、活動を通して今後ますます増加が見込まれる提供精子や提供卵子で生まれた人の利益や幸福を希求していきたく考えている。しかし、すでにドナーリンクに取組んできたオランダのFiomや豪ヴェクトリア州のVARTAを見ても、こうした活動は簡単に実を結ぶわけではない。活動を長期継続させることが重要であり、活動維持のためには、安定した運営資金の調達や、人材の確保等、さまざまな課題がある。ドナーリンク・ジャパンのスタッフは現在のところ、9名全員が無償で活動を行っているが、この活動を継続させるためには、若いスタッフを獲得し、彼らには無償ではなく、それなりの報酬を提供することも必要になってくる。当事者や関係者だけではなく、多くの人や組織にこの活動に賛同してもらい、運営資金や専門的な知識や技術の提供等で支援していただくことが必要になってくる。

またDNAマーカーリンク検査を利用したドナーリンクには、なるべく多くの当事者に登録してもらうことが必要である。特に提供の経験を持つ人の登録は重要である。また、AIDで子どもを持った親たちが子に告知しなければ、出生者も自身の出生の経緯を知らず登録者は増えない。どのように親たちに告知を促し、当事者に登録を呼びかけ、登録者数を増やしていくか、それが大きな課題である。

引用文献

¹ Hibino, Y. and Allan S.: 2020. "Absence of laws regarding sperm and oocyte donation in Japan and the impacts on donors, parents, and the people born as a result," *Reprod Med Biol.* 19: 295-298.

² Minami, T.: 2016. "Legislation toward All Donor-Conceived Offspring the Right to Know Their Origin - The Cases of Japan and Victoria, Australia" *Journal of Philosophy and Ethics in Health Care and Medicine*, 10: 13-22.

第21回日本生殖看護学会学術集会のご案内

テーマ: 多様な社会に求められる生殖看護 — 未来への挑戦と創造 —
会期: 2023年9月3日(日) 9:30 ~ 17:00
開催方法: 現地/後日オンデマンド配信
会場: 福井県県民ホール(福井駅前 アオッサ8階)

日本生殖看護学会は昨年20周年を迎えました。生殖看護の更なる発展のためには、多様な社会、多様な対象への妊孕性支援について最新の知識・情報、課題を共有し、未来への挑戦と創造について語り合う機会が必要と考え、現地開催といたしました。前日の午後からは、共催セミナーも企画しております。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

学術集会長 波崎由美子

● 学術集会プログラム (予告なく変更となる場合がございます)

9月2日(土)学術集会前日・共催セミナー (共催: バイエル薬品株式会社)

13:30 ~	受付開始
14:00 ~ 14:05	開会式
14:05 ~ 15:05	講演「生殖看護に期待したいプレコンセプションケア」★ 前田 恵理氏 (北海道大学大学院医学研究院 社会医学分野 公衆衛生学教室 准教授)
15:15 ~ 16:55	ワークショップ「あなたが取り組んでいるプレコンセプションケアの現状と理想の未来」★
16:55	閉会式

9月3日(日)第21回日本生殖看護学会学術集会

09:00 ~	受付開始
09:30 ~ 09:35	開会式・オリエンテーション
09:35 ~ 09:55	会長講演
09:55 ~ 10:45	教育講演「つなぐ力 — 福井モデルと生殖医療の未来」 折坂 誠氏 (福井大学医学部 産科婦人科学 准教授/高度生殖医療センター副センター長)
10:45 ~ 11:45	特別講演「ART出生児の長期予後から考える生殖看護の役割」☆ 上野 啓子氏(東京医科大学産科婦人科分野 病院助教)
12:00 ~ 13:00	ランチョンセミナー「日本人に必要な葉酸の知識」☆(共催: バイエル薬品株式会社) 太田 邦明氏(東京労災病院 産婦人科部長)
13:10 ~ 13:40	総会
14:00 ~ 15:00	一般演題: 口演・ポスター発表
15:10 ~ 16:40	シンポジウム「リプロダクティブヘルスを支えるARTとケアの未来」☆ 「保険適応によるARTの標準治療化の現状と課題」 澤辺 麻衣子氏(つくば木場公園クリニック 看護師長/不妊症看護認定看護師) 「第三者配偶子提供への意思決定支援」 戸田 さやか氏(はらメディカルクリニック 臨床心理士/公認心理士) 「子どものいない女性の生き方」 くどう みやこ氏(マダネプロジェクト 代表) 「男性不妊患者への看護支援」 菅野 伸俊氏(泌尿器科と男性不妊のクリニック 看護師長/不妊症看護認定看護師)
16:50 ~ 17:00	優秀演題表彰・閉会式

★☆☆マークのついているプログラムは、CLoCMiPレベルⅢ認証申請の選択研修です。(★マークは要件あり)

● 学術集会登録期日と参加費

第1期登録締切: 2023年8月14日(月) 会員6,000円 / 非会員7,000円 / 学生(大学院生除く)2,000円

第2期登録締切: 2023年9月25日(月) 会員7,000円 / 非会員8,000円 / 学生(大学院生除く)2,000円

● お問い合わせ先

第21回日本生殖看護学会学術集会事務局
福井大学医学部看護学科 育成期看護学分野内
〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月23-3
事務局E-mailアドレス jsfn21th@academic-meeting.com

詳細につきましては、第21回
日本生殖看護学会 学術集会
HPをご覧ください。
<https://academic-meeting.com/jsfn21th/>



2022年度不妊症看護認定看護師ポストコース研修会報告

日本生殖看護学会教育推進委員会 野澤美江子

2022年度不妊症看護認定看護師ポストコース研修会「生殖看護の対象となる新しい家族、様々な家族の出産を支援するとは」が2023年3月11日(土)に開催されました。今回も、参加者の参加利便性を考慮しWeb開催としました。また、生殖看護に関心を持っている看護職へも門戸を広げ、54人の認定看護師を含む63人の参加がありました。

最初に4人のスピーカーによるシンポジウムを行いました。女性カップルの出産体験者である長村さと子氏からは、カミングアウト、パートナーシップ・ファミリーシップ制度による結婚、ドナーを探して子どもを得るまでの自分の体験を振り返ると共に、代表をつとめる「こどもまっぶ」に寄せられる当事者の声から障壁となることを提示いただきました。男性カップルの体験者であるみつん氏(スウェーデン在住、動画で参加)からは、アメリカでの代理母出産の経験、その後スウェーデンの生活で感じていることを紹介いただきました。LGBTカップルを支援するNPOとして東京レインボープライド共同代表者である杉山文野氏からはトランスジェンダーである自身が親になる体験をふまえ、改めて法整備に向けて運動することの必要性を語っていただきました。最後はLGBTカップルの出産を支援する医療職として蕨内絵美氏(札幌医科大学附属病院助産師)からは、妊婦健診での関わり、出産に向けた病棟カンファレンスでの検討内容、事前に当事者に確認したことなどを紹介していただきました。シンポジウム後、感想や今後の活動に向けてグループディスカッションを行い、最後に共有しました。対象の捉え方として「LGBTというよりSOGIの視点が大切」「マイノリティではなくスタンダードで関わる」「ひとくりにせず個別性を考慮する」「勉強会を通して関係者間で継続的に学習する必要がある」などが発表されました。参加者の活動経験の差が大きいことが伺える多様な意見が出ました。

アンケートでは、シンポジウムは「とても良かった」が83%、グループディスカッションでも88%が「とてもよかった・よかった」と答えてくださいました。自由記述には「直接当事者から話を聞く機会がなかったのでとても参考になった」「貴重な機会だった」、また「臨床においても今後の対応を検討していきたい」という今後の示唆につながる意見もありました。

このように、今回の研修会はLGBTQカップルの出産の支援だけでなく、LGBTQカップルが子どもをもつことの意味や問題について考える機会となりました。そして、今回は対象理解がメインになりましたが、今後、各自がどのように活動に活かしていけるかが重要であると思いました。

今回の研修会は、ホームページやチラシの広報から参加受付、当日の対応までFamioneにご協力いただきました。Web開催について「便利・参加しやすい」と好評でしたので、次回以降の研修内容と共に方法も検討していきたいと思っております。引き続き、ご協力・ご支援よろしく願いいたします。

ポストコース研修会に参加して

社会医療法人生長会 府中のぞみクリニック 不妊症看護認定看護師 奥井静

LGBTQの日本の人口は、950万人つまり13人に1人に相当するといわれております。当院でも、LGBTQの方が来院されたことがあり、実際に支援となると配偶子の問題や子どもを育てられるかなどの問題があり、とてもハードルが高いと悩みました。今回、研修会で当事者の方々のお話を伺うことでSOGIに関する悩みを抱えながらも子どもをのぞみ、治療を受けたいと思った時にどのような看護介入が必要であるかを学びたいと考え参加いたしました。

今回当事者である3人の方と実際支援されている看護者のシンポジストから講演を聞いて、1.まず性別だけで判断せず話を聴くところから始めること、2.常に正しい情報をアップデートし必要な情報を提供すること、3.真剣に関わってくれていると感じてもらえる関わりをすることが大切であることなど、看護として当たり前と思われることが重要であると考えました。また「男はこうあるべき。女ならこうすべき」などの考えではなく、性の多様性について話し合いができ、話せる環境づくりが必要であると思いました。

グループディスカッションでは、LGBTQの方が子どもを持つための支援のあり方や親側・子ども側の視点についても討議しました。女性だから、男性だからではなく性の多様化についての理解を医療者がまず出来ないと、精神的な支えに到底なれないこと。施設側もロールモデルがないことで時間がかかるなどの現状についての意見交換ができました。

日本では、性的少数派の方々の理解が世界に比べて大変遅れている現状があります。まずは性的少数派の方々の現況を理解することが重要であり、そこから種々の問題点が議論されることによって、現状を変える第一歩になり、多様な価値観を持つことで、必要な支援がなされるのではないかと思います。今回の学びを臨床に生かしていきたいと思っております。

研究結果をどう臨床に応用するか >>>>>

産業医科大学 實崎 美奈

皆様は何のために日本生殖看護学会に入会されましたか？当学会は、「不妊看護の実践家・教育者・研究者の交流を促進し、学術的発展に寄与することにより、個人、および家族の生涯にわたる健康と福祉に貢献すること」を目的として設立されました（日本生殖看護学会会則 第3条）。実践家・教育者・研究者の交流を促進するために学術集会を開催し、学術的発展に寄与するために学会誌を発行、また個人、および家族の生涯にわたる健康と福祉に貢献するためには相談員派遣業務など、様々な活動を行っています。当学会に限らずすべての学会は、会員/非会員にかかわらず、その分野に関連するすべての人とWin-Winな関係をつくるためにあると私は考えています。

学術集会や学会誌で発表される研究結果は、その意図を理解され応用されることで初めて生きてきます。例えば、通院中の患者様が相談窓口を訪れて不安を訴えた場合、傾聴や受容以外にできることがあれば、安心して対応することができます。その“〇〇以外にできること”が見つかるのが、研究結果なのです。相談窓口に予約が入ったら、事前にその方の状況に合う研究結果を集めて自分の知識や情報として相談対応の「ひきだし」を増やすことができます。例えば当学会の学会誌には、不妊治療中の女性に関するものだけではなく、AYA世代の癌患者や早発卵巣不全患者、男性不妊患者に関する研究結果なども掲載されています。相談者が求める対応をひきだしから取り出して提供できれば、相談者－看護者－研究者の三者にとって有意義なものとなります。

しかし、研究結果を読み解く際にはその分析方法を理解する必要性が生じることがあります。独学で理解することが難しい場合には、統計処理などの量的研究については所属施設の医師や培養室のスタッフに質問したり、内容分析などの質的研究については大学教員に質問したりすることで解決できると思います。

また、研究結果は必ずしも目前の対象に応用できるものとは限りません。その研究結果がどのような目的および方法で実施されたのかも含めて理解しておかなければ、見当違いな対応となる可能性があります。同じ不妊治療後の妊婦であっても対象個々の背景は異なります。ケア提供において重視されている“個別性”が絡んでくるからです。もし目前の対象には既存の研究結果が応用できなくても、相談に対応することは看護者自身の経験知になります。その経験知の積み重ねを結果としてまとめて学術集会や学会誌で発表すれば、職場の同僚だけではなく全国の仲間と共有することができます。

会員の皆様に毎年お届けしている学会誌やニュースレターを読むこと、学術集会や研修会に参加して情報を得ることは、不妊の問題を抱える目前の対象や、同じ悩みをかかえる臨床の仲間、もちろん自分自身がより良い状態になっていくことにつながります。共有された研究結果を臨床に応用して活かしたり、自分発信で研究結果を共有したりすることで生殖看護のさらなる底上げに貢献できれば、これほど喜ばしいことはないと思います。難しいと感じる分析方法などを理解して自分のものにできれば、研究結果を読み解くこと、研究結果をつくるのが今まで以上に楽しくなってきます。まずは今年9月に福井で開催される第21回日本生殖看護学会学術集会で、新しい研究結果の誕生に立ち会いましょう！

会員よりNews!

生殖看護認定看護師教育課程の再開講を目指して

生殖看護認定看護師（不妊症看護認定看護師から名称変更）教育の再開講は、2024年4月を目指しております。現在の認定看護師教育課程は専門領域だけでなく、特定行為研修を含むB課程教育となります。現在、特定行為実習施設を確保しての特定行為指定教育機関申請へのハードルが非常に高い状況ですが、修了後の高度実践看護の幅は拡大します。

本教育課程の再開講にあたり、関西における多数のART施設長様や多くの認定看護師らのご支援のもと、英ウィメンズクリニックと大阪信愛学院大学の2施設連携での設立を予定しています。また、野田聖子衆議院議員への陳情に伺い、本課程への支援も頂きました。未だ地道な準備過程途上ですが、現在の進捗状況をお知らせいたします。

生殖看護認定看護師教育研修センター設立準備室 上澤悦子

これから行われる学術集会・研修会情報(2023年7月～10月)

月	日	学会・研修会名	会場	学会HP / 運営事務局
7月	27日(木) ～28日(金)	日本受精着床学会(第41回) テーマ: 変わらぬ路と新たなる歩み -保険診療のステージへ-	仙台国際センター (宮城県仙台市)	http://jsfi41.umin.jp/ 【運営事務局】(株)コンベックス内 〒106-0041 東京都港区麻布台1-11-9 電話: 03-3505-1608 E-mail: jsfi41@convex.co.jp
8月	25日(金) ～27日(日)	日本思春期学会(第42回) テーマ: 思春期学の進歩と将来を 語ろう!	シェーンバツハ・サポー (東京都千代田区) 対面・Web (オンデマンド)開催	https://www.pw-co.jp/42jsa2023/index.html 【運営事務局】株式会社プランニングウィル内 〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-5 石渡ビル6F TEL: 03-6801-8084 E-mail: 42jsa2023@pw-co.jp
9月	4日(月)	日本生殖看護学会(第21回) テーマ: 多様な社会に求められる 生殖看護 -未来への挑戦と創造-	福井県民ホール (福井県福井市) 対面・Web (オンデマンド)開催	https://academic-meeting.com/jsfn21th/ 【学会事務局】福井大学医学部看護学科育成期 看護学分野内 〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町 松岡下合月23-3 E-mail: jsfn21th@academic-meeting.com
10月	7日(土) ～8日(日)	日本遺伝看護学会(第22回) テーマ: 遺伝看護の未来を拓く	聖路加国際大学 (東京都中央区) 対面・Web (オンデマンド)開催	https://www.idenkango.com/学術大会-2/ 学術大会/ 【運営事務局】聖路加国際大学遺伝看護学 〒104-0044 東京都中央区明石町10-1 E-mail: jsgn22nd@slcn.ac.jp
	13日(金) ～14日(土)	日本母性衛生学会(第64回) テーマ: 母性衛生の夢と未来を 語ろう	大阪国際会議場 (大阪府大阪市) 対面・Web (オンデマンド)開催	https://www.congre.co.jp/jsmh64/outline.html 【運営事務局】株式会社コングレ内 〒541-0047 大阪市中央区淡路町3-6-13 TEL: 06-6229-2561 E-mail: jsmh64@congre.co.jp

第13回生殖看護関西地区実践セミナー 報告

HORAC グランフロント大阪クリニック 宮崎 真紀
HORAC グランフロント大阪クリニック 佐野 郁美
神戸元町夢クリニック 地子給志乃

2023年4月16日(日)、「性教育の現状と不妊症看護職に向けた性教育」をテーマに希咲クリニック助産師の田中まゆ先生を講師にお招きして、セミナーを開催しました。

講演では、日本における性教育の学習指導要領と海外で行われているユネスコの性教育ガイダンスの違いや包括的性教育、妊活にまつわる性の悩み、不十分な性教育がもたらす影響など、参加者も田中先生の質問に答える形式で講演を聴講しました。また、TENGAヘルスケアの妊活サポートグッズを実際に手に取り、意見交流を行いました。グループワークでは、講義の感想、性にまつわる医療現場での関わりが難しかったことや今回の講義を受けて実践に活かせる事項、今後の課題について意見交換を行いました。妊活にまつわる性の悩みについて、妊活中のカップルの86%が感じているにもかかわらず公に出来ず、相談出来る場所が少ないことから、私たちがその窓口になることが重要だと感じました。また、自分たちの性教育に対するアップデートが出来ていることが患者教育に繋げていけるという意見も多くありました。実践に活かせる事項として、妊活の開始時期が性教育に適しているとし、初診時期の患者向けのセミナーの企画など提案がありました。

セミナー後のアンケートでは、参加した受講者の9割が継続してセミナーを受講したいと答え、性教育のセミナーの需要が高いことが分かり、第2弾の企画も考えていきたいと思えます。運営としては、今回は現地開催にて実践セミナーを開催しましたが、遠方の方にも参加していただけるよう、Web方式も考慮出来れば良かったと思えました。

お忙しい中講師を快諾していただきました田中まゆ先生、教育推進委員会の先生方、参加いただいた皆様へ感謝申し上げます。

理事会報告

第2回 Web 理事会

日時：2023年3月3日(金) 18:00～19:53

方法：Zoom

出席者：上澤, 森明, 實崎, 坂上, 清水, 奥島, 中村,
野澤, 小松原, 村本, 森恵
波崎, 西岡(オブザーバー)(敬称略)

欠席者：崎山

【報告事項】

1. 第20回日本生殖看護学会学術集会より収支決算報告 & 第21回学術集会進捗報告
2. 20周年記念事業「生殖看護テキスト出版」について経過・進捗状況、寄附金額の報告
3. 不妊症看護認定看護師ポストコース研修会、生殖看護関西地区実践セミナー開催の準備報告
4. ニュースレター、会員メーリングリストについて
5. 6月発行の学会誌について
6. 看保連対応および令和6年度診療報酬改定について
7. 健やか親子21推進協議会総会への参加報告
8. その他 生殖看護認定看護師教育機関設立について

【審議事項】

1. NPO法人Fineより相談員派遣の依頼について
2. 不妊症看護認定看護師への学会活動へのニーズ調査について
3. 入会審査：5名の入会を承認
4. 第22回日本生殖看護学会学術集会長について

第2回臨時(書面)理事会

日時：2023年4月8日(土)

場所：書面による

出席者：上澤, 森明, 實崎, 坂上, 清水, 奥島, 中村,
野澤, 小松原, 村本, 森恵, 崎山

【審議事項】

1. 入会審査：6名の入会を承認

第3回臨時(書面)理事会

日時：2023年5月26日(金)

場所：書面による

出席者：上澤, 森明, 實崎, 坂上, 清水, 奥島, 中村,
野澤, 小松原, 村本, 森恵, 崎山

【審議事項】

1. 入会審査：5名の入会を承認

不妊症看護認定看護師 リレー寄稿

No.22

「私のラストスパート」

長野市民病院 篠原宏枝

私は、神戸研修センター2期生の篠原宏枝と申します。早いもので認定看護師となり来年で20年目を迎えます。昨年からは開始となった保険適用やPGD外来が何とか一段落し、そろそろ自分自身の生殖看護のラストスパートとして自分の集大成をどうすべきかと考え始めました。

さて現在、勤務している病院は長野県北信地域にあるがん拠点病院で、乳がん手術が県内でも多いことから、主に若年乳がん患者さんをはじめとした小児・AYA世代のがん生殖医療の提供を行っています。細々とですが、この医療の提供を行いながらこれまでの20年間で感じたことは、がん生殖看護にはがん生殖の情報提供や意思決定支援だけでなく、もっと多様なニーズに応える看護が存在しているのではないかとということです。具体的には温存しない、できない対象への看護(例えば子宮がんにて子宮全摘した方のグリーフワークや人生の再構築への長期的支援)・BRCA病的変異を有する乳がん患者さんの妊孕性温存、遺伝的な継承への苦悩に寄り添う看護・乳がん患者さんの温存後治療後妊娠中の再発にて中期中絶に至った際の長期的な精神的支援などです。どの症例も長期的な支援の必要性とともに症例ごとにがん生殖看護の介入に特性があるのではないかと考えています。このことは同一の病院でがん治療とがん生殖医療の提供が行えるからこそ気づくことができ、そのような環境で私が不妊症看護認定看護師としてのやりがいを見いだせた貴重な経験となったのです。この幅広く深いがん生殖看護を自分なりにまとめ一緒に働く後輩の看護師さんに引き継ぎ、がん生殖看護の更なる充実を願うばかりです。日々の業務に追われつつも、微力ながら充実したがん生殖看護ができることを私のラストスパートとして駆け抜けたと思います。

次は京野アートクリニック高輪の田中敦子さんです。

論文を投稿しよう！



第21回日本生殖看護学会学術集会において演題発表の準備を進めておられる皆様、過去の演題発表をまだ論文にしておられない皆様も、日本生殖看護学会誌に投稿してみませんか？

学会誌に論文が掲載されることは、生殖看護の質の向上につながります。さらに研究に協力して下さった方々へ感謝の気持ちを示すことにもなります。

査読が厳しいのでは…と思われるかもしれませんが、それは査読が研究指導とは異なる側面をもつため

です。査読者の助言を受けることは質の高い論文を作成するために不可欠な過程であり、投稿者にとっては研究内容を多角的に深める機会にもなります。

日本生殖看護学会誌 第21巻第1号への投稿締め切りは、**2023年11月24日(金)**です。詳細はお手元の当学会誌や学会HPに掲載されている「論文投稿規定」にてご確認ください。

皆様からのご投稿を心よりお待ちしております！

編集委員会

事務局からのお知らせ

1. 第21回学術集会、編集委員会への問い合わせは、それぞれの事務局に直接お願いいたします。
2. 日本生殖看護学会への問い合わせ、会員に伝えたい情報、HP、ニュースレターに関するご意見・ご希望等ありましたら、E-mailで、気軽にご連絡ください。
3. 学会の年会費は8,000円です。会費納入は事業運用上、できるだけお早めをお願い申し上げます。
4. 学会ホームページのマイページに登録が未だの方は、メールアドレス、パスワードの登録をお願いいたします。
5. 異動・転居された方は必ず学会ホームページのマイページから住所・勤務先の変更をお願いします。宛先不明ですと、ニュースレター、学会誌をお届けすることができませんので、ご協力お願い申し上げます。
6. 会員数341名(2023年5月31日現在)です。学会の活性化を一層はかるため、生殖看護に関心のある、お知り合いの方にぜひ入会をお誘いください。入会

案内の入手および入会申込みは学会ホームページ画面より可能です。

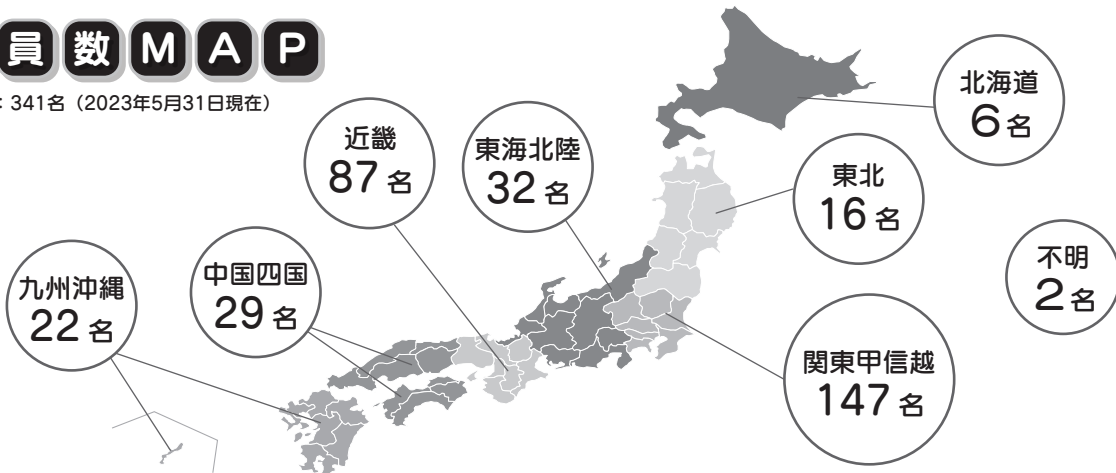
日本生殖看護学会

Japanese Society of Fertility Nursing: JSFN
 〒144-8535 東京都大田区西蒲田5-23-22
 東京工科大学医療保健学部看護学科内
 E-mail: jsfnjimu@gmail.com
 ホームページ <https://jsfn.org/>

ゆうちょ銀行(振替)
 口座番号：00170-2-333413
 加入者名：日本生殖看護学会
 ゆうちょ銀行(振込)
 ○一九(ゼロイチキユウ)店(019) 当座0333413
 口座名義：日本生殖看護学会

会員数MAP

会員数：341名(2023年5月31日現在)



原稿を募集しています！

ニュースレターを通じて実践活動や勉強会などの情報を共有しませんか？掲載を希望される方は広報委員会(sakiyama.takayo@gmail.com)までご連絡ください。次号の原稿締切日は、2023年9月29日(金)を予定しています。

編集後記

今年の学術集会は4年ぶりの現地開催です。知識を得るだけでなく仲間と経験を共有したり、次年度の学術集会に向け発表計画を練る、観光で地域の活性化に貢献するといった能動的な参加をしたいと思います！

広報委員会 崎山貴代、阿部正子、小池弘子